



陽ひなた

その人らしく
～明るく健康で豊かな高齢期の生活づくり～

社会福祉法人陽翔会 会報
令和8年4月 Vol.40



特養

上大瀬

穏やかな日常～1丁目3番地～

入居者さんの日常の一場面を紹介します。職員が手作りした漢字や数字・記号のパズルをさせて過ごしている方が多く、「楽しくて夢中になっちゃう」などの声が聞かれて、実際に脳のトレーニングや気分転換にもなっているのではないかと感じます。また、寒くなってくると居室で横になっている時間が多くなってしまいますので、食後の落ち着いた時間にパズルやゲームを楽しんでいただいています。入居者さん同士の会話も弾み、交流も増えているように感じます。1月にはお汁粉会を行いました。入居者さんから「お汁粉を楽しみにしているの」とお話があったことがきっかけで、お汁粉を作ってお出ししました。皆さん「おいしい」と笑顔があふれていました。別の日には庄内町の和菓子屋つるやさんの出張販売もあり、入居者さんそれぞれ好きな和菓子を選んで購入することも楽しみにしています。



新年の願い



3丁目5.6番地では、新しい年に向けて絵馬を飾ることにしました。「今年の願いは？」と入居者さんお一人おひとりに聞いて回ると、突然の問いかけに真剣に悩んでいる顔、ただただ困っている顔、ひらめいたようにパッと明るく輝いた顔など普段は見られない表情を見せてくださる入居者さんもいました。「願い事といったらやっぱり健康のことだね」とすぐに答えてくれた方もいました。「健康で暮らすのが一番ですよ」と言っていると「おいしい物を食べたい!」「家族に会いたい!」と他の入居者さんも様々な願い事を口にしていました。「この歳になったら願い事もないなあ」と言われる方もいました。心の中の本音が少し垣間見えたりすることも…。いろいろな柄の絵馬の中から好きなもの一つを選んでいただき、写真を張り付け願い事を書き入れて飾りました。皆さんの願い事が叶う良い一年になるといいですね。



グループホーム ひぎり

日曜日のお楽しみ



日曜日はパンの朝食です。副菜はミートボールやスクランブルエッグ、スープはコーンポタージュやかぼちゃスープなど洋風の献立となっております。朝食を入居者さんにお配りすると「今日は日曜日だったね」の一言に「俺は毎日が日曜日だよ」と返されたりと軽やかな冗談が飛び出し、和やかなムードになります。週に一度のパンを楽しみにされている入居者さん。手でちぎって味わう方、箸を使って丁寧に口へ運ぶ方、パンをスープに浸して召し上がる方など、様々な食べ方でゆっくりと朝食の時間を楽しんでいます。「嫁さんがパンを焼いてくれたことがあるよ、うまいっけなあ」「家は毎朝パンだったよ」と懐かしい思い出を話される場面もあり、会話も弾み笑顔が広がります。そんな入居者さんを見守る職員も心温まり、この時間を大切にしていこうという気持ちになります。

デイサービス ひぎり

ジャンボ干支

島田の大代地区には毎年ジャンボ干支が登場します。大代の王子田会（おおじだかい）の有志の皆さんが32年前から始め今年で30作品目となる午の作品はとても大きく迫力がありながらも優しい表情をしています。12月上旬から2月末まで展示してあるので、今回は利用者さん数名ずつでジャンボ干支を見に行きました。実際近くで見るとやっぱり「わぁ～すごいね～」と思わず言ってしまう。見学に行った日は混雑していなかったのですが、胴体の中はどんな風になっているのか見る事も手で触ることもできました。周りには梅の花が咲き始め、寒いながらも小さな春を感じました。行き帰りの車の中は話も盛り上がり楽しいお出かけとなりました。



特養

おおしま

笑う門には福来る

穏やかな午後のひと時、4丁目1.3番地に笑い声が響く中、入居者さんに壁飾りの絵の色塗りを行って頂きました。

入居者さんと職員で季節や絵の意味を考え、意見を出し合い、ワイワイガヤガヤと楽しい会話が弾みます。

今回は今年の干支【午】にちなんで「ウマくいく」という題材に決めました。色塗りが始まると真剣な表情で取り組まれますが、誰ともなく「疲れたから休憩しよう～」という話になり、すぐに入居者さんの意見は一致し、笑いが起こります。入居者さんに急かされお楽しみのおやつタイムです。「ウまいもの食べて皆さんお元気に!」職員も入居者さんに負けじとウまい事を言います。

個々に楽しめる塗り絵も素敵な作品が沢山でき上がります。共同作業で完成した作品にも色々な想いや、冗談を言いながら楽しんだ思い出があります。

これからも沢山の笑顔に囲まれますように!



日常風景～4階編～



4階では回廊での散歩を楽しまれたり、回廊の大きな窓から空を見上げて飛行機や雲を眺めていたりする入居者さんが多いです。回廊ではたっぷりの陽射しと、季節ごとの装飾が楽しめ、ユニットに関係なく入居者さん同士が交流できる場でもあり、和やかな雰囲気の中で穏やかに時間が流れています。たまにいつもの時間にいない方がいると

「今日は〇〇さんいないんだね」と寂しそうな表情をする方もいたり、「足の運動を頑張らなきゃ!」と体操を日課にされている方や「日向ぼっこしてくる」とのんびりくつろぐ方、皆さんそれぞれがご自分のペースでご自分の時間を過ごされています。

今回は4階でゆっくりと穏やかに流れていく日常をお届けしました。

特養

いずみ

生け花風フラワーアレンジメント

入居者のTさんは、18歳で生け花を始められ、90歳まで華道の先生をやってこられたそうです。お正月を迎えるにあたって正月用の生け花(フラワーアレンジメント)をしてほしいとお願いすると、「もうお花なんて触れないと思っていたから嬉しい」と喜んで受けてくださいました。

生け花当日、花材を目の前を見ると、顔つきが凛としながらもどこか優しい表情で、まずは松をオアシスへ。そこから手際よく作業を進められ、あれよあれよという間にとても綺麗な作品に仕上げてくださいました。

他にもナンプレや漢字ワードなどを楽しんでいる多趣味なTさん。他の入居者さんにもやり方を教えるなどして、今では皆さんで脳トレゲームをされています。

これからも持ち前の明るさ、素敵な笑顔で長生きをしてくださいね!!



明るく優しい入居者さんです!



Sさんはスポーツが得意で、昔は野球チームに所属されていたそうです。長年スポーツをされていたからなのか、80歳を超えた今でも背筋がまっすぐ伸びておりとても若々しい印象です。いつも穏やかな表情で職員や他の入居者さんに朗らかに声をかけてくださるので、その明るさが広がりユニット全体がとても明るく活気づいています。

また数字にもお強く、ものすごいスピードで計算を解いているSさんに刺激を受けた入居者さん達が、そのテーブルに集まって一緒にプリントを解き、盛り上がりもしています。

いつも職員の体調を心配してくださる優しいSさん。これからもゆったりとした時間を過ごしていただきながら、たくさんの笑顔あふれる毎日を一緒に重ねていけたらと思います。

ちらし寿司作り



2丁目1・2番地では、1月にちらし寿司のレクリエーションを行いました。常食、お粥、刻み食など、入居者さんそれぞれの食事形態に合わせて職員が盛り付けましたが、マグロやサーモン、桜でんぶなど色とりどりの食材を前に入居者さんは自然と笑顔がこぼれていました。フロア内は明るく穏やかな雰囲気にも包まれ、完成したちらし寿司を囲みながら、「やっぱりお寿司はいいね」「お酢の香りが良いね」と喜ばれる姿が印象的でした。寒い季節ではありますが、食を通して季節を感じ、心がほっと温まるひとときとなりました。

これからも季節や体調に合わせたレクリエーションを行い、日々の生活の中に楽しみや張り合いを感じていただけるように取り組んでいきたいと思ひます。

毎日のお手伝い

3丁目1・2番地では、日頃から入居者さんが洗濯物たたみを行っています。職員がタオルなどをフロアに持っていくと、入居者さんより「たくさんあるし畳もうか?」「どうやって畳めばいい?」などと声をかけて下さいます。慣れた手つきでスムーズに畳まれる方、他の入居者さんに畳み方を聞いたり、見よう見まねで畳まれる方など色々な入居者さんがいらっしゃいます。ただ黙々と洗濯物を畳むだけではなく、「私終わったから手伝うよ」「こんなにたくさん畳んだよ」と他の入居者さんと交流をする場にもなっています。全て畳み終わると、「まだあるなら畳むよ」「どんどん持ってきて」とやる気に満ち溢れた言葉がよく聞かれます。



指の運動になるだけではなく、他者との関わりも持つことができ、脳の活性化にも繋がると思ひますので今後も継続してがんばっていただきたいと思います。

初日の出



令和8年1月1日、すっかり恒例となった初日の出を入居者さん・職員で拝みました。フロアの窓越しからではありませんでしたが、集まっていた入居者さんは、新年最初の日の出を目にした瞬間、拍手喝采。そして合掌して今年の抱負や願い等、入居者さんそれぞれの想いを心の中で呟いておりました。

当日は天候にも恵まれ、とても素敵な初日の出を拝むことができ、令和8年幸先の良いスタートを切ることができました。

入居者さんお一人おひとりがお体に留意され、健康で穏やかな日々を過ごしていただける良い1年にしましょう。

新年会

年も改まった1月某日、新年会を開催しました。改めて新年の挨拶を済ませ、入居者さんに福引きを楽しんでいただき、お汁粉をふるまいました。



福引きは職員の手作りのおみくじとなっており、おみくじ箱から出てきた棒に書かれている「大吉」「中吉」「小吉」によって受け取る景品が異なる仕組みとなっています。

入居者さんは気合を入れて(?)くじを引き、棒に書かれた文字に一喜一憂!!「やった大吉よ」「中吉...。まずまずね」と、たくさんの笑顔を見ることができました。

お汁粉も好評で「おいしいね」「おかわりある?」等、喜んでいただきました。こうして盛況のうちに、あっという間に新年会はお開きとなりました。

午後の活動紹介



おおしまデイサービスでは、午後1時30分からフロアでレクリエーションを行っており、1月はカルタ大会、2月は節分とバレンタインに関するゲームなど季節に合わせたイベントや曜日対抗戦・じゃんけん大会など盛り沢山のレクリエーションを利用者さんと職員で楽しんでいます。他にも、デイサービスの玄関前では体操を行っています。ペットボトルやタオル、ボール等の身の回りにある物を使っての体操や平行棒を使った体操も行っており、利用者さんから人気の小田先生の号令と一緒に楽しみながら体を動かしています。

道具を使った体操が終わると、次は下半身を使った体操を行っていきます。利用者さんと職員が1対1で出来る範囲で行う個別筋力トレーニングです。回数は利用者さんのその日の体調等を考慮しながら行っています。

利用者さんは、「自分のためだから、頑張るよ。歩けなくなると困るから」と笑顔で取り組まれています。移動の最中も利用者さん達からは「これもしハビリ!!」との声がよく聞かれます。利用者さんの一生懸命頑張る姿を見て、私達職員も日々元気を頂いています。



民謡舞踊鑑賞会



12月23日、【ボランティアさくらの会】の皆さんによる民謡、舞踊披露のイベントを開催しました。

開催前に利用者さんに「今から綺麗な着物を着て民謡や舞踊を披露していただきますよ」とお伝えすると、「うわっ本当!?嬉しい!」「どんなのを踊ってくれるのかな、楽しみ!」と興味深々の声が聞こえてきました。そして袴姿で登場されたさくらの会の皆さんと写真を撮らせていただくと、さながら有名人と写真を撮る時のようにどの利用者さんも素敵な笑顔で撮影ができました。踊りが始まると皆さんの明るい手拍子が響きます。そして、どの曲でもさくらの会の方たちに合わせて自然に手が動き、立ち上がって踊り出す方もいらっしゃいました。

最後の演目の輪踊りには利用者の皆さんも輪の中に入り、とても楽しそうに音頭を取っていました。息を上げていらっしゃる方に「座りましょう」とお声掛けしましたら、「もっとやりたい」と元気な声が返ってきました。

本当に楽しい時間はあっという間に過ぎましたが、利用者さんとさくらの会の皆さんとの交流を深めることができました。



クリスマス会

12月24日、クリスマス会を行いました。

今回は、職員がサンタクロースの衣装を着てダンスを披露しました。利用者さん達が一緒に口ずさめる曲として、美空ひばりの「真っ赤な太陽」を選曲しました。利用者さん達から笑顔がこぼれるような振り付けを練習し、手拍子と声援をもらって、ダンサーになりきって踊りました。笑い声と拍手をいただき、フロア内が明るく温かい雰囲気に包まれました。



ダンスの後は、サンタクロースに扮した職員が、お一人おひとりにクリスマスカードを手渡ししながら記念撮影も行いました。「楽しかったよー」「上手に踊ったね」「また来年もやってよ」と、嬉しい感想もいただきました。

おやつには、ショートケーキと一緒に、コーヒー、紅茶等を含む5種類の中から、飲み物を選んでいただき、いつも以上の笑顔を沢山見ることができました。



入居者さんとの思い出

青木雅雪美

19年前、介護の初心者で陽翔会に入職しました。最初の数年間は入居者さんを“見る”事で精一杯でしたが、先輩達の指導を受け段々と入居者さんを“看る”事が出来るようになりました。

約19年の間多くの入居者さんとお会いしてお別れを経験すると共に沢山の思い出ができました。その思い出の中で特に印象が強かったのはS様でした。

S様は開設と同時に入所され、満百歳で旅立たれました。人懐っこいS様は自立度が高い時期にはじっとすることが苦手で常に動き回っていました。食器洗いや洗濯物畳みなど、よくお手伝いをしてくださいました。夜間、休憩室の重いドアを開け暗闇の中ひとりソファに座っていたなどの“行方不明”、また、火災警報器のボタンを押してしまうなどの騒ぎを起こし、施設全体をヒヤッとさせたこともありました。警報器ボタンを押した時に駆けつけた職員「ボタンから手を離してください」の声掛けに「強く押し過ぎて書いてあるじゃん」と、ボタンの上に小さく表示された文字を指しながら話された時の光景は、今でも忘れられません。時の経過を経てベッド上で過ごされる時間が長くなってからも、お声を掛けると目を細めていつも笑顔で応えて下さいました。天国へ旅立たれた日、看護師とS様の手を握り昔懐かしい話をしていると、意識が無くなる中、笑みを浮かべ柔らかい表情をされました。そのようなことから多くの学びをさせていただきました。

S様以外の入居者さん、上司や同僚からも、色々なこと（介護のノウハウ、生き方等々）を学ばせていただき、この場を借りて感謝の意を伝えたいと思います。

大橋美紀

女性入居者H様との思い出です。

H様は、若い頃に仕事を一生懸命やられていたこと、国内外の旅行に色々出掛けられたこととお話して下さいました。また、ご主人や子供様、妹様のこと等、時に冗談を交えながら沢山お話して下さいました。ご家族様のお話をされる時は穏やかな表情になられていたのが印象的です。ご家族思いで常にご自分よりご家族様を優先される優しい方だったんだなと感じました。私も仕事のことや結婚してからの家族のこと等をお話することもありました。人生の先輩であるH様に「今からご飯作るの？大変だね。私も仕事やってたから分かるよ」と労いのお言葉を頂き嬉しく思うこともありました。

すでに退所されておりますが、H様がいらしたらこんな会話をするだろうなと思出すこともあります。名前でご呼んでくださったり、色々お話しくださったことに、感謝の気持ちでいっぱいです。

牧井淳泰

全盲のS様との思い出です。

S様は目が見えない分、人の声や匂い、味を大切にする方で、また日曜日には知人と競艇にも行かれていました。

ある年の誕生日イベントをユニットで計画をしました。外出にお連れし、近くの納涼亭でふっくらと焼き上げられた鰻を召し上がったのだと思います。「こんなに美味しい匂いと味は久しぶりだよ」ととても喜んでくださり、その時の笑顔は今もはっきりと覚えています。ご飯（鰻）の後は、散歩を兼ねて二侯城跡や万葉公園へお連れしました。その際「ここは広いな」「風が気持ちいいな」とその場の空気を全身で感じているようでした。見ている景色を言葉で伝えるたび「ありがとう」と感謝の言葉をくださいました。その時に感じた喜びが、介護職として今でも一番の原動力となっています。

馬淵規容子

M様とは、フロア長として接するようになって初めて話しかけていただきました。「あなた、初めて見るやあ」と、素っ気ない口調でしたが、その後も覚えていて下さりM様の顔馴染みの仲間入りになっていったように思います。ご自分から積極的に話す方ではなかったのですが、こちらから話しかけると娘様や嫁様に恵まれたといつも仰っていました。月日が流れる中で食事量や水分量摂取が減っていき、いつ最期を迎えてもおかしくない状態が続きましたが、栄養補助食品や水分を口元へ持っていきと開口して生きようとする本人のチカラを感じました。娘様や嫁様、お孫様も1年近く殆ど毎日面会に来られ、話しかけていらっしゃいました。私の手を握り「あんた、今日も来てくれただね。また来てよ」と仰ってくれました。最期を迎え、娘様が駆けつけた時には息を引き取る所でしたが、M様には娘様の気持ちが伝わっていたはず。お見送りの際、娘様が私に駆け寄りハグして下さい「こちらの施設でお世話になって本当に良かったです。母も私達家族も心から皆さんに感謝しています」と仰って下さいました。ユニットスタッフ、看護師や多職種の気づき、思いやりがご家族に届いていたと強く感じ心に残っています。

施設に寄せられたご意見

R7年12月3日 短期入所生活介護事業所おおしま（ご利用者の配偶者様より）

「ショートステイのご利用開始時、職員から持ち込み荷物の量について配慮を欠く発言をされました。また、内容物の確認に際して、衣類を床に直接置くという不適切な取扱いがありました。」

→速やかに謝罪を行うとともに、該当職員に対して、利用者様の物品を大切に扱う意識と、接遇マナーについて厳重な指導を行いました。また、お預かりした荷物を直接床に置かず、必ず椅子や机の上で丁寧に確認することを全職員に再徹底いたしました。今後も、ご利用者やそのご家族が安心してサービスの利用ができるよう、接遇の質向上とお預かりした物品の丁寧な取り扱いに努めてまいります。